

B-5 アルメニア語の不定詞による名詞修飾の機能—日本語との対照を通して—

クロヤン・ルイザ（名古屋大学大学院）・堀江薫（名古屋大学）

キーワード：アルメニア語、対照言語学、名詞修飾表現、「外の関係」、不定詞

1. はじめに

アルメニア語はインド・ヨーロッパ語族の言語であり、文法構造の上では日本語と大きく異なっている。その1例として、(1)のような関係節が挙げられる。

(1) Da hayrik-ic' st-ac'-ac' žamac'ujc'-n [er, vor-ě na vačar-ec' ancanot'-in].
it father-ABL receive-AOR-PTCP.RES watch-the was which-the he sell-AOR stranger-DAT
「見知らぬ人に売ったのはお父さんからもらった時計だった。」

一方、アルメニア語は日本語と同じSOV語順を有するため、単文レベルでは日本語に近い振る舞いをする文法現象もたくさん見られる。その一つとしてアルメニア語の分詞や不定詞による名詞修飾表現が挙げられる。アルメニア語の分詞による名詞修飾表現は統語・意味のレベルではかなりの程度日本語の連体修飾表現と対応関係を見せる。特に、日本語の連体修飾表現の中で、英語などのヨーロッパ言語に訳しにくいとされている「サンマを焼く匂い」のような「外の関係」の連体修飾表現もアルメニア語では不定詞の名詞修飾表現として無理なく表現できる。一方、アルメニア語の不定詞の名詞修飾表現にはその容認性に関して様々な制約が観察される場合があるが、アルメニア語の名詞修飾に関する従来の研究の中でこれらの制約を詳細に探求した先行研究はない。

本研究は、寺村(1992)の「外の関係」の分類を参照し、アルメニア語の不定詞が「外の関係」の名詞修飾表現として用いられる範囲、およびその使用に課せられる制約の性質を明らかにする。なお、以下では「名詞修飾表現」「連体修飾表現」という用語を統一し「名詞修飾表現」とする。

2. 日本語の名詞修飾表現

本稿では日本語の名詞修飾表現に関する寺村(1992)による分類を参照する。寺村(1992)は日本語の名詞修飾表現を構文・意味の両面で分類している。構文の面では「内の関係」と「外の関係」に分類している。「内の関係」の名詞修飾表現の特徴として、装定が述定に置き換え可能であり、その際に修飾節と主要部名詞の間に何らかの格関係が成立するという点を挙げている。

(4)さんまを焼く男。<←男がさんまを焼く> (p. 192)

それに対して、「外の関係」の名詞修飾表現の場合は主要部名詞にどのような格助詞を付けても「修飾部のどこにも納まらない、その用言と結びつかない」(p. 194)、装定をひるがえして述定に換えることのできないという構文的な特徴を挙げている。

(5)さんまを焼く匂い。 (p. 192)

寺村(1992)はさらに、意味の側面から「内の関係」の名詞修飾表現では、修飾節が主要部名詞を「付加的」に修飾し、「外の関係」の名詞修飾表現では「内容補充的」に修飾していると指摘している。

構文的特徴

意味的特徴

「内の関係」	「付加的修飾」
「外の関係」	「内容補充的修飾」

(p. 198)

「付加的修飾」というのは、修飾節が主要部名詞の内容に関わらず、付加的に修飾しているということであり、主要部名詞は「修飾部の用言に対して補語と考えることのできるような関係」(p. 195)を持つ表現のことである。それに対して、「内容補加的修飾」の場合は、修飾部が主要部名詞の内容を表す、または、その内容に関わるような関係にある表現のことである。以下(6a)は「付加的修飾」、(6b)は「内容補加的修飾」の例である。

(6) a. これは女房が近所の者から聞いた話である。

b. これは女房の幽霊が三年目になってようやくあらわれる話である。(いずれも p. 193)

寺村(1992)は「内容補加的修飾」をさらに、「ふつうの内容補充」と「相対的補充」の2種類に分けている。前者に関しては、その主要部名詞によって、「発話・思考の名詞」、「コトの名詞」、「感覚の名詞」のような内容を持つものの三種類に分類し、後者に関しては、その内容的修飾の意味関係がふつうの内容補加的修飾と変わっており、「逆補充」の関係にあることを指摘している。「相対的補加的」名詞修飾表現の主要部名詞には「上、下」、「翌日」「前日」のような「空間・時間的に相対性をもつもの」と、「原因」⇔「結果」のような「因果関係を表す(寺村(1980))」、いわゆる「概念的な相対性を持つ」ものを挙げている。

3. アルメニア語の名詞修飾表現

アルメニア語の名詞修飾の手段は「mix」タイプに分類され、定形節、分詞句(結果分詞、仮定分詞、未来分詞II、不定詞)、相関節の3種類の中、どれも優先性なく現れるとされている(Dryer (2005))。意味論的には定形節と分詞句の間に差がなく、分詞句が定形節の省略された形式とされている((Jasmine Dum-Tragut (2009))。そのため、話し言葉では分詞句の方が定形節より表れやすい。アルメニア語のこれらの手段の中、定形節に関する先行研究はある程度存在している(Papoyan, Badikyan(2003)など)が、分詞や不定詞の名詞修飾表現に関して考究した研究は殆どない。

寺村(1992)の名詞修飾表現の分類でいうと、日本語の「内の関係」の名詞修飾表現に関しては、アルメニア語では定形節、または、分詞句(上述した分詞すべて)が用いられ、両者はほとんどの場合置き換えが可能である。ただし、日本語の連体形動詞の「テイル」形がアルメニア語の仮定分詞に対応している一部の表現に関しては、分詞句の使用範囲に制限が見られる。

日本語の「外の関係」の名詞修飾表現に関しては、「短絡型」タイプ以外の、「内容補加的」・「相対補加的」名詞修飾表現に関しては、アルメニア語では、定形節または不定詞句が用いられるが、その中の「相対補加的」名詞修飾表現に関しては、アルメニア語では不定詞句の方が定形節より広範囲の対応関係を見せる。

4. 外の関係の観点から見たアルメニア語の不定詞による名詞修飾表現

4.1 内容補充

寺村(1992)は「内容補加的」名詞修飾表現をその主要部名詞によって「発話・思考の名詞」「コトの名詞」「感覚の名詞」というように三つに分類している。寺村は、これらの「発話・思考の名詞」が名詞修飾を受ける際の特徴として、修飾節と主要部名詞の間に「という」が介在可能であること指摘している。発話名詞の場合は「という」の介在が必須であるが、「思考名詞」の場合はその陳述度が下がるにつれて「という」の介在が必須ではなくなることを指摘している。また、「コトの名詞」に関して

は「という」の介在が任意であると述べている。

アルメニア語では、「発話思考の名詞」及び「コトの名詞」に関しては不定詞による名詞修飾が可能であるが、場合によっては、日本語の「という」の介在現象と類似した現象がアルメニア語にも見られる。それは、不定詞と主要部名詞の間の「masin(について)」という語の介在現象である。先行研究では *masin* の介在の条件に関して分析を行ったものはないが、基本的に、*masin* の介在が必須なのは(7)のような伝言に関わる表現の場合である。ただし、(8)のようにその生起が任意である場合も見られる。また、「コトの名詞」に関しては、基本的に介在しないという点では日本語の「という」と多少異なった振る舞いをしている(9)。

(7) ... [*errord erkir veradarn-al-u masin Hakob Injilulyan-i*] *c'ankut'yan-ě, Arman-n*
 third country return-INF-GEN about Hakob Injilulyan-GEN desire-the Arman-the
as-ac', vor Hakob-ě namak-um nman ban č'i gr-el.
 tell-AOR that Hakob-the letter-LOC such thing NEG write-INF <https://www.panorama.am>
 “...as for the desire of *Hakob Injighulyan* to move to a third country, Arman told that Jacob did not write anything like that in his letter.”

(8) *Pashtonakan Yerevan-ě [haravkovkas-yan taracašrjan-i veraberyal banakc'utyun-ner-in*
 official Yeravan-the South Caucasus region-GEN related to negotiation-PL-DAT
masnake'-el-u (masin)] hraver č'i st-ac'-el.
 participate-INF-GEN about invitation NEG receive-AOR-INF <http://www.7or.am>
 “Official Yerevan has not received an invitation to participate in negotiations on the South Caucasus region.”

(9) *Ayd patčar-ov, ete mard-ě [buterbrod-ner-i, hamburger-ner-i kam tapak-ac kartofil-i*
 that reason-INST if person-the sandwich-PL-GEN hamburger-PL-GEN or fry-RES.PTCP potato-GEN
het surč xm-el-u] sovorut'yun uni, nra ar-yan mej
 with coffee drink-INF-GEN habit has his/her blood-GEN in
bavakanin hačax e barjranum šak'ar-i makardak-ě...
 quite often is rise-PTCP.PRES sugar-GEN level-the <https://med.news.am>
 “For that reason, if a person has a habit of drinking coffee with sandwiches, hamburgers or fried potatoes; the sugar level in blood rises quite often...”

それに対して、「感覚の名詞」に関してはアルメニア語の名詞修飾表現において不定詞の使用範囲に制限が見られる。寺村(1992)は、「感覚の名詞」として「姿、匂い、形、色、音、感触、感じ、気配、写真、絵、光景」のような名詞を挙げている。寺村(1980)によれば、これらの「感覚の名詞」を主要部とする名詞修飾表現の中、「知覚を表す名詞」(音、匂い、味など...)を主要部とする名詞修飾表現を英語に訳す際に「that節でなく、“of~ing”の形の内容的修飾形式をとる特徴がある」(p.260)、また、「写真」「光景」のような名詞に関しては、「“of~”だけでなく、“in which...”関係節を取ることが多い」(p.260)。これらの名詞を主要部とする表現をアルメニア語の定形節で表現しようとする、その現象の内容説明のような長い文を用いなければならない。ただし、興味深いことに、多くの場合、これらの名詞に対しては不定詞による名詞修飾が問題なく成立する。アルメニア語の名詞修飾表現の中で、不定詞の名詞修飾が定形節より広い範囲を埋めているのはこの場合である。ただし、不定詞の名

詞修飾がこれらのすべての名詞に対して可能という訳ではなく、その中の一部については用いられない場合もある。不定詞による名詞修飾が受けられない名詞の中には「絵」、「写真」、「姿」などのような名詞がある。例えば、(10)において「太陽が沈む光景」が可能であっても、(11)の「太陽が沈む写真」は不可能である。(12)と(13)も同様で、「誰かが階段を下りてくる足音」が可能であっても「誰かが階段を下りてくる姿」は不可能である。これらの表現が不可能であるのは、不定詞句による名詞修飾表現において主要部名詞の指示対象を修飾節が直接補充するか、主要部名詞の指示対象と修飾節の内容の間に直接的な因果関係がなければならぬという意味的な制約によるものと考えられる。(10)(11)の「太陽が沈む」という出来事は(10)の「光景」という主要部名詞と直接的に結びつけられるが、(11)の「写真」という主要部名詞は、「太陽が沈む(光景の)写真」といったようにその結びつきがより間接的である。また、(12)の「下りてくる」という動作と(それによって生じる)「足音」という名詞の間に直接的な因果関係が想定しやすいのに対して、(13)の「姿」のような主要部名詞との因果関係が想定しにくいいため、不定詞の名詞修飾が成立しにくいものと考えられる。

- (10) Menk' kangn-ac eink' ayntel ew nay-um eink' [arev-y mayr mtn-el-u] tesaran-ě.
 we stand-PTCP.RES were there and watch-PTCP.PRES were sun-the sink-INF-GEN scene-the
 “We stood and watched *the scene of the sinking sun.*” <https://life.panorama.am>
- (11) *Kangn-ac einq ayntel ew nay-um eink' [arev-ě mayr mtn-el-u] nkar-ě.
 stand-PTCP.RES were there and watch-PTCP.PRES were sun-the sink-INF-GEN picture-the
 “We stood and watched *the photo in which the sun was sinking.*”
- (12) Ls-v-ec' [inč' vor mek-i astičan-ner-ic' ijn-el-u] votnajayn-ner-ě.
 hear-pass-AOR someone-GEN stair-PL-ABL come down-INF-GEN footstep-PL-the
 “We heard footsteps of *someone coming down the stairs.*” <https://www.google.am>
- (13) *...Inč' vor mek-i [astičan-ner-ic' ijn-el-u] tesq-ě....
 someone-GEN stair-PL-ABL come down-INF-GEN appearance-the
 “...*a figure of someone coming down the stairs...*”

4.2 相対性の名詞

寺村(1992)は、「相対性の名詞」として①「時間的な前後関係」を表す名詞、②「因果関係」を表す名詞、③「空間的な関係」を表す名詞を挙げている。

これらの名詞類の中、「因果関係を表す名詞」に対して不定詞の名詞修飾が問題なく成立す(14)(15)。

- (14)...[tarec' knoj-ě sep'akan bnakaran-um dažanabar span-el-u] meładrnak'-ov
 elderly woman-GEN own apartment-LOC brutally murder-INF-GEN charge-INST
 datapart-v-el ē c'mah azatazrk-man
 sentence-pass-INF is life imprisonment-DAT <https://www.azatutyun.am>
 “...was sentenced to life imprisonment on charges of *brutally murdering an elderly woman in her own apartment.*”
- (15) Sakayn Elle amsagr-i telekut'yun-ner-ov' [Arajin alik'-ě lk'-el-u] patčar-ě
 but Elle magazine-GEN information-PL-INST First Channel-the leave-ING-GEN reason-the
 dekretayin ardzkurd-n ē.
 maternity holiday-the is <https://life.panorama.am>

“However, according to the Elle magazine, the reason for leaving the First Channel was a decree.”

「時間的な前後関係」を表す名詞に関しても不定詞の名詞修飾が成立するが、この類の名詞の「前」「後」のような語を伴って現れる名詞、及び、「anc (after)」という語を伴う名詞を修飾する場合には不定詞が多少異なった振る舞いを見せる。具体的には、不定詞は通常属格を伴って名詞を修飾するのに対して、これらの名詞に関しては奪格で現れるという点である(16)。ただし、それ以外の「時間の名詞」に関しては属格の格変化を伴う(17)。

(16) Gyumr-u kentronakan hraparak-um Art'ur Alek'sanyan-i bolor erkrpagu-ner-ě havak'v-el
 Gyumri-GEN central square-LOC Artur Aleqsanayan-GEN all fan-PL-the gather-INF
 ěin [nra Gyumri gal-uc'] mek u kes žam araj.
 were his Gyumri come-ABL one and half hour ago <https://armeniasputnik.am>
 “One and a half hour before his arrival to Gyumri, all fans of Arthur Alexanyan gathered at Gyumri's central square.”

(17) [Tun g-al-u] hajord or-vanic' Alan-ě arj-i qun mt-av.
 home come-INF-GEN next day-ABL Alan-the bear-GEN sleep enter-AOR
 “From the very next day, Alan went to sleep.” <https://www.google.am>

相対性名詞の中、不定詞による名詞修飾が受けることが出来ないのは、主に、空間的な関係を表す名詞の場合である。これらの名詞類に対して不定詞の名詞修飾が不可能になる要因には、不定詞のアスペクト性に関わる制約によるものと、意味・統語的な制約によるものが見られる。アスペクト的な制約が働くのは不定詞が状態性を表せないという性質による。空間名詞を伴う表現の場合は修飾節の述語が状態的な出来事を表すことが多いため、こういった表現においては不定詞による名詞修飾が不可能になる(18)。代わりに、結果状態の継続を表せる結果分詞の名詞化(19)、或いは、相関節(20)が用いられる。

(18) * [Nranc' nst-el-u] hetev-um... (19) [Nranc' nst-ac-i] hetev-um...
 their sit-INF-GEN behind-LOC their sit-PTCP.RES behind-LOC
 「彼らが座っている後ろ...」 「彼らが座っている後ろ...」

(20) Ajn vayr-i hetev-um, [vortel nranq nst-ac ein].
 that place-GEN behind-LOC where they sit-PTCP.RES were
 「彼らが座っている後ろ...」

また、例えば、(21)のような文が不定詞の名詞修飾表現として成立しても(22)のような文が成立しないのは、不定詞が空間的な直接的隣接性を要求するという制約が働くためである。

(21) ...amen angam [tan-ic' xanut' gn-al-u] čanaparh-in getnanc'um-i tak,
 each time home-ABL shop go-INF-GEN way-DAT underpass-GEN under
 handip-um ei mi bari papik-i... <http://imyerevan.com>
 meet-PTCP.PRES I was a kind old man-DAT
 “Each time on the road to the shop, under the underpass, I used to meet a nice old man ...”

(22) * ...amen angam [tan-ic' kxanut' gn-al-u] dimac'-i pořoc'-um...
 each time home-ABL shop go-INF-GEN behind-GEN street-LOC
 “Next to the road where I always go to the store...”

5. おわりに

本研究では、名詞修飾節に関する寺村(1992)の「内の関係」「外の関係」の分類を参照し、アルメニア語の不定詞が「外の関係」の名詞修飾節として広範囲に用いられることを確認した。ただし、「内容補足的」名詞修飾表現において主要部名詞が「感覚の名詞」である場合、及び「相対補足的」名詞修飾表現において主要部名詞が「空間名詞」である場合に関しては、不定詞の使用可能性にアスペクトを含む意味・統語的な制約が影響していることを観察した。

謝辞

本研究は以下の科学研究費の支援を一部受けております。基盤研究（C）：課題番号 16K02624（代表：堀江薫）

参考文献

- Dryer, M.S. 2005. "Order of relative clause and noun". In *The World Atlas of Language Structures*, edited by Martin Haspelmath, Matthew S. Dryer, David Gil, and Bernard Comrie. Oxford University Press.
- Jasmine D.T. (2009) *Armenian. Modern Eastern Armenian*: John Benjamins Publishing Company: Amsterdam / Philadelphia
- Papoyan, A. Badikyan, X. 2003. *Žamanakakic' hayoc' lezvi šarahyusut'yun*. Erewan: Erewani hamalsarani hratarakč'ut'yun. (Syntax of Modern Armenian language)
- 寺村秀夫 (1980)「名詞修飾部の比較」国広哲弥(編)『日英語比較講座 第2巻 文法』139-184 大修館書店
- 寺村秀夫 (1992)「連体修飾節のシンタクスと意味」『寺村秀夫論文集—日本語文法 編—』くろしお出版, 157-320.

略語一覧

AOR (Aorist) AUX (Auxiliary) DAT (Dative) GEN (Genitive) INF (Infinitive) INS (Instrumental)
LOC (Locative) PL (Plural) PTCP.PRES(Present participle) PTCP.RES (Resultative participle)